



開物成務

令和8年3月24（火）発行

校長 大越 泰子

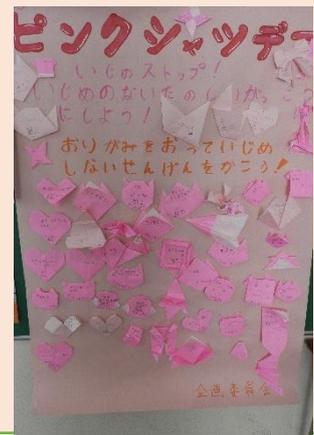
ご卒業おめでとうございます

3月19日(木)に卒業証書授与式をとりおこない、95名が本校を卒業していきました。在校生代表の5年生や、大勢の保護者、来賓の方々に見守られながら、胸をはって巣立っていきました。朝、職員室の外で、2年生の女の子が、「6年生が卒業しちゃうのいやだな。さみしいな。」と話している声が聞こえました。その子の班長さんが、そうじの時に優しくしてくれたことが、彼女の中にいつまでも残っているのです。すてきだなと思いました。

コロナ以降、朝会や儀式的行事が簡略化されて、長時間にわたって緊張した状態が続くような式は、卒業式ぐらいとなりました。児童にとっては、厳しいところもあると思いますが、節目の儀式を体験することは、大きな意義があります。また、5年生にとっては、来年の自分たちの姿をイメージし、最上級生としてのバトンを受けつぐ儀式でもあります。いつもとは違い、正装をした6年生が一人ひとり堂々と証書を受け取る姿は、どのように映ったでしょうか。

ピンクシャツデー

ピンクシャツデーという運動をご存じですか？2007年にカナダの高校生が、ピンクのシャツを着た男子生徒がいじめられていることに反対するため、「みんなでピンク色のシャツを着て登校しよう。」と呼びかけたことから始まりました。その行動により男子生徒へのいじめは収まり、さらにいじめに反対する運動は学校だけでなく、世界へと広がっていったのです。開成小学校でも、企画委員会が中心となって取り組みを考えました。そして、ピンクの折り紙で折った作品に、「いじめしない宣言」を書いて貼ってもらうことにしました。昇降口に貼られた模造紙にはたくさんの宣言が集まりました。いじめのない学校にしようというみんなの思いが伝わってきました。困ったときに助け合える友達がいることが大きな力になります。優しいハートが集まる開成小学校にしていきたいでしょう。



6年生おめでとう集会

3月11日(水)に朝から1時間目にかけて、6年生おめでとう集会を開催しました。本校では、この集会「子どもたちがつくる卒業式」として位置づけ、「開物成務」の伝統と、めざす学校像「すてきさんが『つくるぞだてる』じまんの学校」が、卒業生から在校生へと受け継がれていくことをめざしています。5年生は、この集会に向け、準備を重ねてきました。この集会に向けて取り組む中で、新6年としての自覚と責任が生まれてきます。3学期の大きな意味のある集会です。当日は、一緒に清掃をしたなかよし班で並びました。吉田島高校の生徒さんからいただいたパンジーをこの集会に向けて、環境委員会の5年生が中心になって育ててきました。3年生が絵を描いたビニール袋に入れ、4年生が書いた名前カードを添えて、1・2年生が手渡しました。6年生の嬉しそうな笑顔から、班長との今までの交流の様子が感じられる素敵な瞬間でした。



在校生の歌「明日へつなぐもの」
気持ちのこもった
素敵な歌声でした



6年生 総合的な学習総まとめ

2・3月は、6年生の総合的な学習が総まとめの時期で、活発に校外に出て活動しました。1組は、開成幼稚園へ行って、園児との交流会を行いました。最初はどうかと様子も見られましたが、次第に笑顔で接するようになり、互いに良い体験となりました。2組、3組は、瀬戸屋敷のひなまつりにボランティアで参加しました。休日にも関わらず、多くの子が協力してくれました。「子どもたちが協力してくれると、来場者が増えてにぎやかになりとても助かっています。」と地域の方も喜んでくださいました。



積極的に声をかけ来場者に楽しんでもらおう

としている姿や、大人と関わっている様子が、とても上手で感心しました。お店とのコラボ商品も多くの方に協力いただき、ありがとうございました。



ベイスターズがやってきた

横浜 DeNA ベイスターズが、15周年事業の一環として、神奈川県内の小学生にキャップをプレゼントして下さることになりました。それに伴い2月27日(金)には度合隆輝選手(背番号4 横浜高校出身)が、直接プレゼントをしに来てくださいました。また代表児童3名とキャッチボールを披露し、全校で記念写真を撮りました。短い時間ではありましたが、プロで活躍する選手との交流を通して心に残る思い出ができたことでしょう。翌日からは、ベイスターズキャップをかぶって登校する児童が増えました。



4年生 車いす体験



4年生は総合的な学習で「福祉」をテーマに取り組んできました。3月3日には、ゲストティーチャーとして初鹿さんをお招きし、実際に車いす体験を行いました。自分が乗るだけでなく、押し手になってカラーコーンを回ったり、マットの段差を乗り越えたりしました。体験後の感想では、思ったより動かしやすく工夫されていることへの驚きや、「段差はちょっと怖かった。」「雨の時はどうするの。」という体験したからこそ生まれた感想が聞こえてきました。

校長室の窓から

この季節になると、色々なところで「桜ソング」を耳にします。森山直太朗、いきものがかり、福山雅治、嵐、コブクロ・・・様々な桜をテーマにした曲があります。あなたの好きな「桜ソング」はなんですか？多くの桜ソングに共通するのは、今はいない、「あなた」を思い浮かべて歌っていること。桜の花びらが舞う状況を見て、かつての思い出や、懐かしい人を思い出している情景が多いように感じます。

春は出会いと別れの季節。新しいことが始まる期待の裏側には、懐かしい人との別れや不安が入り交じっています。桜は私たちにとってやはり特別な花。その美しさは、かつての思い出を気持ちと共に強烈に呼び起こすのでしょう。また、歌にも同様の役目があります。懐かしい曲を聞くと、その曲を聴いていた当時の思い出がよみがえってきます。だからこそ、「桜ソング」はいつまでも、多くの人に愛され続けているのでしょう。今年の卒業生の晴れ姿は、どんな曲と結びついて、心に残るのでしょうか。

皆さんの新しい門出が、幸多いものであることを心から願っています。卒業、進級おめでとう。